

令和4年度第2回利用者懇談会議事録

令和4年度 第2回 生涯学習センター利用者懇談会
日時： 令和5年3月16日（木） 19時00分～21時00分
場所： 東久留米市立生涯学習センター 学習室1
出席者： 利用者懇談会委員 【学識経験者】2名 【利用者代表】3名 【指定管理者】施設長、設備管理責任者 【関係行政機関職員】生涯学習課長（生涯学習課係長帯同） 事務局 【指定管理者】副施設長 欠席者：なし 8名の委員の内8名が出席、過半数の出席にて会議を開催 開催の目的 指定管理者が管理運営を行う東久留米市立生涯学習センターの指定管理期間中の運営を適正かつ円滑に行うために、市民のご意見等を伺う場として利用者懇談会を設置する。
議題： (施設長) 「生涯学習センター利用者懇談会設置要綱」には「第3条 懇談会は、委員10人以内で構成する。」とあり、現在委員の方は合計8名。 本日は、8名中8名の委員にご出席いただき、「生涯学習センター利用者懇談会設置要綱」第6条に定める「過半数」に達していることをご報告する。 これまで同様当懇談会は原則として公開扱いとなり、事前に傍聴希望者へのご案内をHPに掲載している。傍聴希望者がいる場合は後ほど入室していただく。（→傍聴者なし） 今回の議事録については前回同様、後日委員の皆様にご確認いただいた後、センターHPで公開する。 それでは会を進めるにあたり、初めに本日用意した資料を確認させていただく。 〈配布資料〉 ◆ 式次第 ◆ 資料1 令和4年度 東久留米市立生涯学習センター利用統計 ◆ 資料2 令和4年度 東久留米市立生涯学習生涯学習センター事業一覧【実績報告】 ◆ 資料3 令和4年度 施設維持管理報告【実績並びに今後の予定】 ◆ 資料4 令和5年度 東久留米市立生涯学習センター事業計画 ◆ 資料5 令和4年度 生涯学習センター利用者アンケート集計結果 ◆ 資料6 東久留米市立生涯学習センター利用者懇談会委員名簿 1. 開会（進行役 施設長） それでは次第に沿って進めさせていただく。次第の1～4までの進行を私のほうで務めさせていただく。 2. 市担当者紹介（生涯学習課より自己紹介と挨拶） 3. 設備管理者、事務局紹介（設備管理責任者、副施設長より自己紹介と挨拶） 4. 会長挨拶 （会長）もう長くご一緒させていただいているが、生涯学習センターは東久留米市の生涯学習の中核、大きな計画となっている。先ほども早く来たのでロビーの展示の絵を見させていただいたのだが、プロが描いたのではないかと思うような絵が飾っており、皆さんが足を運んでそれぞれの文化的な素養を気づかせていただくという場所になっていると思う。今日は皆様からいろいろなご意見をいただいて、さらにこのセンターを発展させていくように皆さんで頑張っていきたい。どうぞよろしくお願ひします。

5. 報告（進行役 会長）

次第に沿って、「令和 4 年度 東久留米市立生涯学習センター利用統計」、ならびに「令和 4 年度事業実績」に関して施設長より、並びに「施設維持管理報告」を設備管理責任者に報告をお願いする。

●資料 1 令和 4 年度 東久留米市立生涯学習センター利用統計

「9 月以降の新型コロナウイルス感染拡大防止対応と全体的な動きについて」

- ・9/16～ イベント開催におけるエリア区分（大声あり・大声なし）運営方法（大声あり 50%まで、大声なし 100%まで）について。
- ・2/1～ イベント開催時のチェックリスト・イベント結果フォームを作成・公表することで人数上限・利用率に沿った開催を可とする。
- ・3/13～マスク着用が個人の判断に委ねられた。徐々に緩和され、活動を休止された団体様も活動再開の問い合わせがあるなど利用者様が活動を復帰され、増えてきているというのが全体の傾向としてある。

「月曜日利用者推移」

- ・曜日別構成比：一番高いのが日曜日 27%、土曜日 22%、水曜日 13%、火曜日 11%、木曜日、金曜日 9%、月曜日が 8%という内容で、月曜日が引き続き一番構成比が低い。
- ・平日水曜日人気は変わらないが、本年度は火曜日に活動する団体が定着しつつあることから火曜日の利用率が伸びている。

「午後利用者推移」

- ・令和 4 年度の午後利用合計は 2 月までの実績で利用件数 3,097 件、利用人数で 27,139 件。昨年の 2 月までの累計は前年件数比 96%、前年人数比 152%。件数が前年を割っているのは、昨年はワクチン接種で全館貸し切りが 6～10 月までであったことが要因。
- ・他の時間帯別の人数比較：午前中が前年対比で 145%、夜間が 203%。夜間利用は昨年対比で伸び幅が大きいですが、コロナ前の 2018 年度と比較すると 40%程度。要因はコロナ禍による活動休止、利用時間帯の変更。

「生涯学習センター利用者実績」

- ・2 月末までの利用総数は、前年比で利用件数 103%、利用人数 187%。（2018 年対比で利用件数 84%、利用人数で 71%と回復傾向）。特にホール利用が大きく活性化し、利用者昨年対比で 268%。昨年プリンター故障で利用中止していたのを再開したのが要因。
- ・さらに、保谷こもれびホールや練馬文化会館が改装休館になることもあり、東久留米に新規登録で利用する団体も増えている。
- ・前回の利用者懇談会では年間 10 万人に達する見込みと報告したが、現段階で 3 月末の見通しでは 95,000 人程度になる見込み。来年度は 13 万人まで利用者を回復させたいと考えている。

●資料 2 令和 4 年度 東久留米市立生涯学習生涯学習センター事業一覧【実績報告】※9 月以降の実績（ホール事業）

9 月以降で 8 公演実施。うち 3 公演が完売、1 公演がほぼ完売と好評をいただいた。

（生涯学習事業）

- ・子供向け講座：放課後講座を 9 月～毎月 1 回の計 7 回実施。
- ・大人向け講座：スマホ講座
- ・親子参加型講座：2 講座
- ・市民協働型講座：1 講座を実施。

●資料 3 令和 4 年度 施設維持管理報告【実績並びに今後の予定】

令和 4 年 8 月から令和 5 年 2 月までの修繕工事他実績を説明。修繕を 9 件実施。

意見・感想

【放課後講座全般について】

(利用者代表)

毎月参加される固定のこどもの学年は上がってきている状態か？対象は小学生から中学生とあるが、その子たちが継続して上がってくると、ずっと利用者でいられるような案を考えられているのか。

(施設長)

現状はある一定のターゲットとなっており小学校1年生～3年生を中心に楽しめるぐらいの工作内容という切り口は変わっていない。今のお話の中学生まで繋がっていけばいいなというところまでは出来ていない。

(利用者代表)

・小学3、4年生ぐらいで卒業、という訳ではないが、学年が上がるとずっと来ていた子は参加が止まってしまうイメージなのか。

(施設長)

講座に参加したこどもがまだ中学生にはなっておらず今後の動きは分からないが、恐らくそうなるのではないかと予測している。放課後講座の波及効果としては、毎月参加しているこどもに教育熱心のお母さんがセンターの講座に触発されたのかご自身で工作のサークルを作り、自分たちもやりたいと団体を作るという動きがあった。

(利用者代表)

・こどもが参加するきっかけは、大人の働きかけによるものが大きく、その子たちはやがて自分で楽しいものを探していく。楽しいことを見つけた時には親を介してではなくこども同士で「実は面白いんだよ」という展開になると、大人を介しての広がり方とは違った広がり方になる。細々でも少しずつでも受け皿となる講座を準備してあげると、途切れることない生涯学習という言葉のとおりで、途切れることなく興味を持っていくことができるのではないかと思う。

【放課後講座の参加者について】

(利用者代表)

放課後講座に来るこどもはほぼ一緒のメンバーなのか。

(施設長)

半分ぐらいは同じメンバーで、スタッフも大体名前を憶えている。

(利用者代表)

・一回受けてみると良さが分かる方が多いのでは。導入部でいかに沢山の人の集めるかが必要だと思う。経験しないからそこに行けないというのがある。それをどうしたらいいのが課題。

・こどもが小さいときは、親が選ぶと親が好きなものだけになってしまう。公共施設の良いところは、親があまり興味ないものも触れさせてあげることができる。好きなものだけを選んであげるのではなくて、コロナの状況にもよるが定員が増えていくと入り口が広がっていくので良いと思う。

・文化協会でもこどもと大人の体験塾を今やっているが、参加者がずいぶん増えてきた。1人の人がいろんなジャンルを体験する。そういうところから入って行って、今度は続けられるものを見つけていく形になる。

【若年層の体験学習のニーズについて】

(利用者代表)

・リアルに一気にシフトしてきている。アパレルの方から話を聞くと、ECサイトが全然売れなくなった。わざわざ買いに行きたい、わざわざ見に行きたい、わざわざ人のいるところに行きたいなど、交流が途絶えてしまったことに危機感を覚えているのではないかという見方がある。ちょうどコロナ明けのタイミングでこどもたちに限らずフォローしてあげると集客が見込めるのではないか。またニュースでは今の新社会人は学生時代にリアルで人間とあまり会ってない為、社会人になったら今までは若い人たちが避けてきた仕事の後の飲み会なども積極的にいきたいと言っている人が多いと聞く。

・若い子は交流の場に行きたいといい、中年層は無くなって良かったという話を聞く。世代でギャップがある。

【事業設計について】

(学識経験者)

「おとながあそぶアート講座」のような事業が、小学生・中学生・高校生を繋ぐカギになるのではないかと。ちょっとした陶芸体験などを通じて、自分で日常使いができるものを作り、使ったりすることが愛着を持って次に繋がっていくような、そんな講座の設計が出来れば面白い。それこそ文化協会さんとかのサークル活動とも繋がると面白いかと思う。

(利用者代表)

- ・小学3年生、4年生ぐらいから塾に行く子が増え、公共施設との繋がりがパタッと途絶えてしまう感じがする。社会に出るまで足が遠のいてしまうのではないかと。
- ・小学3・4年生以降も、中学生も来てほしい。塾のような記憶型の学習を今まで通りやる家庭ももちろんあるが、体を使って考えて自然に学ぶ学習が出来ればよい。

【イベント運営について】

(関係行政機関職員)

生涯学習課主管のスポーツ健康ウィーク企画への打診に対し、即座に取り組むスピード感に感謝申し上げる。

特に「口腔ケア」は健康寿命の延伸に寄与するところであり、歯磨きの大切さを福祉保健センター等ではなく、生涯学習センターで出来たのは非常に意義があったのではないかと考えている。

また、自主事業「宮沢和史コンサート」における東久留米柳久保小麦製品の販売は、都外の方に市の特産物をPRできる良い機会ということで指定管理者から相談を受け農業委員会会長に取り次いだのだが、すぐに販売の手立てを整えるなど民間のスピード感と地に根差した取り組みが出来たということは非常に意義があったことである。

(副施設長)

スポーツ健康ウィークでの歯間ブラシ配布・歯磨き模型作成の提案は、社会教育主事実習で受け入れたインターン大学生からの発案だった。何か実体験を、というのは展示テーマでもあったのだが、先程のご意見でもあった通り、やはりリアル体験が不足している世代の学生ならではの発想の体験型アイデアであると考えている。

【大人向け講座】

(学識経験者)

大人向けスマホ講座の評判が毎年良い。4回開催とのことだが、同じ方が4回受ける連続講座なのか、それぞれ違う方が合計58名受けた単発講座なのか。

(副施設長)

それぞれ違う方が2時間コースで完結する講座を受講した。より多くの方に受けてもらいたいので落選は極力出したいとなったが、応募も多く定員の兼ね合いでやむなく落選を出さざるを得なかった。

(利用者代表)

10月から電子申請の制度が変わる。比較的自営業の方は平日昼間来ることが可能なので、入門やその制度の説明など、生涯学習センターは行政の情報を入手できる立ち位置にいるからこそできる内容を展開すると、個人事業主の方も興味を持てるのではないかと。たとえ参加人数が少なかつたとしても意義があるものである。

また、生涯学習センターでも赤ちゃんとかお母さんに特化したものがあると仲間づくりにもなると思う。交流する二面性というか、例えば幼稚園では一生懸命いいお母さんを演じていたりするので、いくつかの場所があると息抜きができる。

【居場所づくりについて】

(学識経験者)

先程あったリピーターで、ここが支える拠り所になるという発想も併せ持ち、その上で新たに来ていただく方々を開拓する居場所づくり、両面があるとよい。

(学識経験者)

先程ご意見いただいたように、こどものコミュニティをサードプレイスという言い方をすれば、家でもない学校でもない 3 番目の場所としてしっかりここが位置づけられている。だからこそリピーターもいらっしゃるし、ここで友達作りができるという効果もある。クラスの中や学校で居場所を持ってない、親同士が上手くいっていないなど悩みがある人も、ここに来ればホッとできる。そのきっかけとしてこういった講座があると来やすい。

いわゆる生涯学習が持っている意味合いとは、居場所づくりであったり、学ぶ場所というのが学校や家庭だけでなく、もともと地域にあるということを生涯学習センターが発信していけると良いと思う。

(会長)

次第に沿って、令和 5 年度事業計画について「運営・自主事業」に関して施設長より、ならびに「施設維持管理報告」を設備管理責任者に報告をお願いします。

●資料 4 令和 5 年度 東久留米市立生涯学習センター事業一覧【報告及び今後の予定】

全館イベント 1 イベント、ホール公演 9 公演、生涯学習事業 9 講座、その他 2 事業を予定している。

(ホール事業) 9 公演

(生涯学習事業) 9 講座

- ・子供向け講座：2 講座 放課後講座（毎月 1 回）を含む
- ・大人向け講座：2 講座
- ・親子参加型講座：3 講座
- ・市民協働型講座：2 講座を実施。

(その他事業) 2 事業

●資料 3-1 令和 5 年度 施設維持管理報告

令和 4 年度 3 月休館日に消防設備の不具合事項の修繕 3 件（消火栓ホース交換、非常放送スピーカー交換作業、誘導灯交換）その他、陶芸窯の修理作業予定。

令和 5 年度の修繕計画では、市：3 件（誘導灯更新作業、スプリンクラー設備フート弁交換作業、受変電設備機器交換作業）、指定管理者：4 件（建具修理、非常用発電機消耗部品交換作業、冷温水発生機部品交換作業、冷温水ポンプ整備作業）を予定。

意見・感想

【施設維持管理について】

(利用者代表)

以前にカーテンをきれいにしていただいたが、その後定期的にクリーニングの予定は組んでいるのか。カーテンは汚れがあると劣化が早くなると思う。

(設備管理責任者)

現在のところ、計画は立てていない状態。現在建物が築 37 年で各所竣工当時の器具が設置されている場所が多い。本来であればご利用様に使いやすい利便性や美観に手を入れたいのだが、優先順位としてはまずは施設の安定かつ持続的な運営に重点を置いている状況で、カーテンについては実施計画が立てられていない状態。

(施設長)

今季はカーテンへの手入れは出来なかったのだが、汚れが目立っていた座布団を全てクリーニングした。カーテンはタイミングが難しく、クリーニングに出している間カーテンが無くなってしまう。年末年始などスケジュールリングが上手くいけば実行したいと考えている。

6. 自由討論

【生活困窮家庭への学習支援についての必要性】

〈概要〉

(学識経験者)

生活困窮家庭は生活困窮に直面させすぎない、さりげないアプローチが重要であろう。

生涯学習センターは幅広い世代を対象とした施設であり、万人に開かれた学習施設である故の「さりげない」アプローチが可能な場である。

(施設長)

施設内の一人になれる場所に彼らが必要とする情報が掲載されていることが、さりげないアプローチではないかと考え、「バリアフリートイレ」にて情報を掲載することを検討していきたい。

なお、発信情報はサービスの利用者だけではなく、支援者の目にふれることも大事と考える。支援の輪が広がっていくためにも、バリアフリートイレだけでなく、他の場所での情報提供も検討していきたい。

以下討議内容

(学識経験者)

以前に発言させていただいたのだから、母子家庭、ひとり親家庭、生活困窮家庭だとなかなかダブルワークなどで気持ちの余裕もなく、なかなか子どもと時間がとれない親御さんへのさりげない支援として、例えば情報の伝えるときの方法としてこども食堂にパンフレットを置くとか、あるいはひとり親家庭の窓口、自立支援の方の家計支援などの窓口で働いている職員に情報提供をするとか、いろんな面からそれぞれ子育てを頑張っている世帯を支えられるように課を超えて生涯学習センターは意識的に、企画の段階からフットワーク良く動くことができるかと思っている。生涯学習課の中の、課を超えた連携の中で、情報や提供をお願いしたいと思う。それは以前も発言していたのだが、お考えがあれば、聞かせていただきたい。あるいは今実施している中で、現場ならではだからこそ、ここで言ってもらえると。いかがでしょうか。

(施設長)

SDGs 目標4の「質の高い教育をみんなに」にある通り、やはり母子家庭にアプローチが出来ないかは現在検討している。しかし、生活困窮家庭に対するアプローチとして公平性があるやり方で無料の事業が提案できないかというところで考えが留まっている。ご意見いただいたようにこども食堂のようなところで、放課後講座をやっていますよ、のようなアプローチが出来ると、ひとり親の方々がいる場所が作れる効果があるのではと考えている。そしてそれをするためには、講座に参加できる人数やキャパシティを増やしてかなければいけないと考えている。

(関係行政機関職員)

今会長がおっしゃられたようなひとり親支援や自立支援に関して、市側でも情報提供し、こういった活動のパンフレットを置けるように、例えばひとり親支援であれば、子育て支援課や福祉総務課というセクションもあるので、繋がりがあるということ、センターと共有しどういったチャンネルがあるかを共有していきたい。また福祉総務課とは学習支援の取り組みとして学習室を優先利用として場の機会提供を行っている。そういった行政内の連携もあるので、全てが指定管理者でやっているわけではなく、行政が自発的にやっているところもある。また市が行う場合は文化協会に委託して実施する生涯学習委託事業というものもある。様々な形でこの施設を使っているという状況がある。

(利用者代表)

こども食堂を始め、駄菓子屋さんなど民間のところにも情報を置いていただくことで行動の促進ができる。しかし制度自体を知らない、また保護者が意図的に情報を止めてしまったりと、情報が行き届かないケースもある。積極的に公共の場所に情報を置いていただくと足が向くのではないかな。

(学識経験者)

公共性という意味で広くだからこそ逆手に取り、結果として個に届くという意味合いがあるのだと思う。

それぞれが補完したいけどできないところを、気がつかないうちに補完してもらえてという、つまり支援を受けるということに対しては気が引けたり、あるいは特別扱いを逆にしてほしいという人もいる。例えばひとり親家庭でも生活保護受給の資格があるにも関わらず自ら申請しないという、申請制度の弊害もある。ひとり親の家庭の方々のいわゆる生活困窮の度合いが高いという部分もあり、どうカバーするかということを考えていかななくてはならない。

公共施設は非常に情報が届きやすいからこそ、情報も気楽に受けやすいのではないか。その結果として親子講座も気軽に参加してみようかという、ハードルが低く参加していただけていると思う。是非お考えいただき、東久留米がそういうところを先駆的にやっている生涯教育の場を届くような、結果としてひとり親家庭や生活困窮家庭や虐待予防というぜひそういうところに関わっていただきたい。

具体的な対応としては、例えば子供食堂を企画されている方、相談員の方など、生活困窮者自立支援法の文脈で窓口になっている職員の方に、生涯学習センターをどう活用できるかアイデアの聞き取りをするのが良いと思う。前面に出しすぎるとかえって難しい。いわゆる生活困窮者自立支援法に学習支援の取り組みがあるが、それは生活保護家庭や、あるいは教育的な文脈で教育無償制度を利用されている家庭に分からないように取り組みを行っている。前面に出すと、周りの目もあるのでそこは出さない。

(関係行政機関職員)

板橋区の植物園のだけでもトイレの中で母子相談のパンフレットが置いてあった。子供たちと植物園と一緒に安く来られ、一息つけるのが植物園のトイレなのかなど。悩まれたお母さんが、ふと気づいたときに目の前にパンフレットがあり、それによって連携が行くと感じた。トイレにパンフレットが置いてあるのは衛生的にどうなのかと感じる反面、アイデアとしては非常に感心した。会長のおっしゃる、必要な人に必要な情報が届かないという点では、色々な角度から情報発信することも考えていければと思う。

(利用者代表)

こどもの高校にて、親が生活に精一杯でこどもに昼食代を渡せない、もしくはお弁当を持たせられない家庭が増えているのを、どういうところだったら先生にSOSを出せるかを、卒業する高校3年生の生徒に家庭で聞いてみるという取り組みを行った。トイレの個室にQRコードがあれば、そこから先生におながすいた、という相談ができるのではという話が出た。トイレの個室は一人になれる場所のため、友達にそのチラシを見ていること自体知られたくない子にとってはトイレに貼ってあることは重要とのこと。こどもたちからもトイレの手洗いとかではなく、個室の中にQRコードが貼ってあったらそういう声を出しやすい、というアイデアが生徒たちから出た。

(学識経験者)

トイレは色々な可能性がある。生涯学習センターはこどもが1人で来てもあまり違和感がない。先ほど出た民間のスピード感と行政のネットワークの、更により良いマッチングを期待している。

詳細は以上

【利用者アンケート DX 化について】

(施設長)

毎年年末に紙アンケートを行っていたが、今年は紙媒体を使わず QR コードでWebアンケートを取る方式とした。目指すべきあり方としては幅広いチャンネルで効率よく収集することで、従来は来館いただいたお客様に紙を渡してお答えいただくことしか出来なかったが、ホームページとか SNS と連携することで、毎月来ない団体様、アンケート実施期間に利用のない団体様にもお答えいただくことが可能となる。効率よくチャンネルを広くというような形とした。

通年年1回やっているものを今回は年2回実施し、①7/18～8/17、②11/25～12/31で行った。総数は200団体程にアプローチした中で①49件、②64件、合計113件ご協力いただくことができた。特にご高齢の方には苦手意識があるようだったが、インターネット化が世の中進んでいることもあり、ぜひトライアルでやってみませんかとお声がけをした結果ご協力いただいた。

作成日：令和 5 年 8 月 15 日

J N 共同事業体作成

7. 事務連絡（施設長）

次回は、令和 5 年度第 1 回利用者懇談会を 8 月頃に開きたいと考えている。詳細は直近になったらご連絡させていただく。

8. 閉会（会長）

委員の皆様のご協力により本日の予定を無事終了することが出来た。
これにて、令和 4 年度第 2 回利用者懇談会を散会とする。

以上